

# 野田村二十一人討死

## 証如上人御消息披露法要

講師 小林 顯英 先生

2023.5.8(月)

講題 「光のうちにある」



当日朝、コミュニティの碑を掃除してお花を供えました。今年も地域の方や圓満寺役員の方が綺麗にしてくださいました。おつとめの直前にも掃除して下さい、とても有り難いです。

法要が始まる前に、コミュニティの碑の前で総代さんをはじめ、御門徒さんと一緒に『讃仏偈』のおつとめをしました。



碑の前でのおつとめが終わったらお寺に戻り、証如上人の御消息に間違いがないか、確認を総代さんで行います。コミュニティで一緒におつとめをした役員の方にも見ていただきました。





3年ぶりに御法中が出勤して下さいました。また共におつとめ出来る喜びです。やっぱり有り難いですね。



高座にて、まず縁起の古文書を読み上げます。続いて、證如上人の御消息の拝読です。お念仏相続のため命をかけて證如上人を守り抜いて亡くなられた二十一人の方への感謝とこの事実を忘れることなく後世へと語り継いで欲しい旨が記された證如上人直筆のものです。約490年前の出来事と当時のそのままの御消息です。ここまで受け継がれてきたことに、ただただ驚くばかりです。

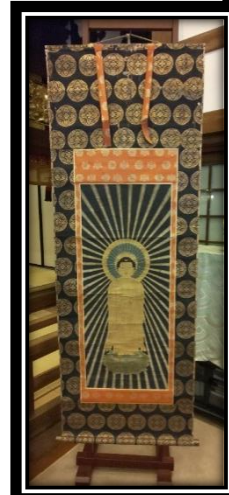


縁起、證如上人の御消息披露の後には、本願寺より昭和33年にいただいた『顕彰の辞』を院主が代読。「この法要を大切にして、これからもお念仏相続に励んで下さい」といった内容です。



「光のうちにあり」と講題を賜りました。阿弥陀さまは、1人でも救えない者があるならば仏・阿弥陀とは名乗らないと言われ仏とされました。私たちはたとえ私が気づかずとも1人残らず、全ての生きとし生けるものが阿弥陀さまの光のうちにあり、願われています。こちらが願う前に必ず救うぞと絶えず休むことなくはたらきかけて下さるのです。

その阿弥陀さまの教えをわかりやすくお伝え下さったのが親鸞聖人です。その法灯を絶やすまいと證如上人を守り抜いて亡くなった21人の念仏者がおられたことをこれからも感謝し、忘れないためにも後世に伝えていく大切な法要のご縁でした。



約490年続いた法要です。これからも皆様と共に大切にし、お念仏相続のお手伝い出来るよう励んで参りたいと思います。

本日は新しい打敷の初お披露目でもありました。御報謝下さいました皆様有り難うございました。大切に掛けさせていただきまます。3年ぶりの御法中の出勤にウジ引き、従来の法要が戻って来て、より有り難く味わう法要でした。